エバーグリーン第 20 回企画

全国高校生平和集会 in 焼津（2024 年 3/27･28）のためのプレ集会

平和な社会を実現するために、私には何ができるのだろう

日時：2024 年 3 月 10 日（日）13：00 ～16：30

場所：藤枝市生涯学習センター

13:00～開会・エバーグリーン活動紹介

13:05　歌声に祈りを込めて　焼津中央高校音楽部

13:25「ばらの祈り」朗読劇　焼津高校演劇部

13:45　映画上映：「我が友　原子力」

（2020 年渡辺謙一監督作品　57 分）

上映協力費 1000 円
学生以下無料

14:50　市田真理さん（第五福竜丸展示館学芸員）&

高校生によるビキニ事件当時の手紙などの朗読・トークセッション

15:50～高校生による歌・朗読劇・書道などの発表

高校生による歌・朗読劇など

- 焼津中央高校音楽部
  「歌声に祈りをこめて」
- 焼津高校演劇部
  「ばらの祈り」朗読劇
- 藤枝北高校演劇部
  「満蒙開拓とは何だったのか」
- 島田樟誠高校演劇部
  「島田空襲　明日までつづく物語」
- 榛原高校書道部

※調整中、変更の可能性あり

主催　エバーグリーン藤枝

後援　藤枝市・藤枝市教育委員会

【連絡先】前売り券等問い合わせ

- 静岡高教組　054－254-6900
  info@s-koukyouso.jp
- 橋本　純　090－1864－4887
  hashijun0606@gmail.com
- 山口良二　090－9663－6101
  george2525peace@yahoo.co.jp

我が友 原子力
放射能の世紀

核は爆弾と軍隊、原子力は電気と平和利用というイメージの棲み分けがある。
同じはずなのに、なぜだろう？
この疑問に答えるため「放射能と被ばく」を切り口に歴史を紐解いた。

第1章

放射能雲の中の米軍兵士

第2章

死の灰の中の日本漁船

第3章

ラジウムガールズ

第4章

被ばくと沈黙

第5章

怒りの訴訟

タイトルについて

このタイトルはWalt Disney製作の『Our Friend The Atom（邦題:我が友-原子力）』に由来しています。
日本では1958年元旦に日本テレビが放送し、原子力と核兵器・核実験のイメージを分離するプロパガンダでした。医学・産業・科学・未来イメージを原子力に植え付け、核兵器・核実験とは別のものであると核二元論を洗脳しました。憲法9条を持つ日本が原子力を導入するためには核二元論が理屈の上で必須でした。日本の原子力導入への歩みは1954年に表面化しますが、その年は水爆実験を含む核開発実験がビキニ環礁やネバダで常態化する時期でもあります。3月1日にはマグロ漁船第五福竜丸が死の灰をかぶり急性被ばくの犠牲者を出します。その翌日、国会では原子力研究開発予算が中曽根グループの手で提出されます。日本国内の反核運動が盛り上がりを見せるその渦中で、原子力導入の道が開かれる。それを可能にしたプロパガンダが『Our Friend The Atom』です。『我が友・原子力』というタイトルにこだわったのは、“放射能”を切り口に“原子力と核兵器”、両者一体のイメージを再構成したいと思うからです。

主な出演者

吉澤 正巳
希望の牧場

深谷 茂
元三春町 副町長

山下 正寿
元高校教師
太平洋核被災支援センター事務局長

崎山 比早子
放射線医学

今野 寿美雄
子ども脱被ばく裁判
原告団代表

武藤 類子
福島原発告訴団 代表

オスカー・ゴンザレス（元米海軍兵士）
ダニエル・ハーレン（元米海軍兵士）
谷脇 寿和（元マグロ漁船乗組員）
ジャンマーク・コッセ（キュリー研究所 医師）
イヴ・ルノワール
（ベラルーシ・チェルノブイリの子供たち協会主宰）
アレクサンダー・マーチン（元米海軍士官）
ロバート・レークナ（元米海軍兵士）
増本 和馬（元マグロ漁船乗組員）
レオ・ファート（米海兵隊退役軍人）

監督：渡辺謙一　プロデューサー：渡辺クリスティーヌ　仏語テキスト：ミカエル・フェリエ　作曲：アルチュール・ジレット
映像：エマニュエル・ヴァレット　音声：渡辺 顕　編集：テオ・リヒテンベルジェ　グラフィック＆アニメーション：ユネス・ジャブラン
映像調整：アルノ・ランベール　音楽編集：トマ・ユゲ　制作：ARTE France / KAMI Productions　配給：インプレオ
原題：NOTRE AMI L'ATOME　2020年／フランス／HD／57分　wagatomo-genshiryoku.com

© United States Naval Institute